



KANSAI
UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター

平成26年度 文部科学省「大学教育再生加速プログラム」採択

21世紀を生き抜く考動人

<Lifelong Active Learner>の育成

KU-AP NEWSLETTER

December 2019 vol.7



大学教育再生加速プログラム



学びをつなぐ交渉学

教育推進部 教授 三浦 真琴

平成21年度に採択されたGP事業と、その後の大学教育再生加速プログラム(AP事業)を通じて、私たちはアクティブ・ラーニングの展開に腐心してきた。この間の取組を振り返るに当たり、確認あるいは再考すべき課題に思い当たる。

企業や社会から大学の教育に対する要望は幾度も出された。高度経済成長期に専門知識を有する人材の量的確保あるいは質的保証が求められた後は創造性や教養が重要視されるようになった。殊にこの20年間は自律的に考えながら主体的な行動を取りつつ、他者とも協働できる姿勢や態度など、専門的な知識や技能とは別に汎用的能力が重要視されている。

二つの事業を通じ、生涯に亘って創造的な思考と責任ある行動を継続的に実践する考動人の養成に取り組んできたが、考動力とは、前に踏み出す力・考え方力・チームで働く力、すなわち職場や地域社会で求められる社会人基礎力である。それは知識のみ裏打ちされたものではなく、幅広く深い教養と総合的な判断力があつてこそ獲得されるものである。知識としてではなく、姿勢としての教養(buildung)を大学教育の場で涵養する機会を私たちは得たのである。

委細詳細は割愛するが、わが国の大学はbuildungを是としながらも、具体的な社会変革の設計図を描くことのない理想主義的なものを教養として標榜し、あるいは専門教育の基礎もしくは前段階に位置するものとしてこれを軽んじてきた。そこにはシトワイヤンとしての成熟、あるいはジェントルマンの如き姿勢が盛り込ま

れることはなかった。しかし、今や良き市民やジェントルマンシップの育成のために教養が見直されるべき時なのである。

企業から要望を突き付けられるのは大学教育と産業界の人材養成との間に連続性が見いだされないからである。高大接続が問題視されるのは、高校で学ぶことと大学で学ぶことの間に同じく連続性が見いだされないからである。高校・大学・社会における個人の学びを途絶えなくつなぐのが教養ではないか。

そのように考えた私たちは教養を主知主義の陥穰に葬らないように実践を積み重ねてきた。その柱が交渉学である。大学生が社会人(大学生の将来)と共に交渉を体験するとき、社会人から意思決定のノウハウを伝授される。これはインターンシップでは得られない貴重な経験となる。その経験を積み重ねた学生が高校生(将来の大学生)を対象としたワークショップを企画し、共有の幅を広げる。すると今度は高校生が中学生を相手にワークショップを企画する。中学生から社会人までが交渉学によって見事につながったのである。

とはいえ、交渉学は我が国ではまだ若い学問である。これを体験するワークショップの裾野をさらに広げていく必要もある。今はまだ異なる世代、異なる教育段階に所属する者を繋ぐばかりではあるが、やがて一個人が教育段階や年齢を超えて自らの学びに連続性を実感できるように、私たちはさらに実践を積み重ねていかねばならないと思う。



部会からの報告/The DOTS部会

「The DOTS部会」では、考動力育成のための正課及び正課外プログラムを検討します。具体的には、①交渉学科目やクリティカルシンキング科目の開設及び運営、②交渉学ワークショップの企画・実施、③アクティブ・ラーニング型授業を行う教員の育成（セミナー・ワークショップの実施、教材開発など）を中心に行います。

IBM本社でIBM社員と関大生が交渉学ワークショップを行いました

8月8日、箱崎にあるIBM本社にて、本学学生(7名)と武藏野大学の学生(5名)のほか、國學院大学や東京理科大学の学生、一般社会人が参加して、IBM交渉学コミュニティの創設者である大塚さんの指導の下、IBM交渉学コミュニティの皆さんと合同セッションを行いました。



テーマは、これから初めて会う人への自身の第一印象について準備するプロセスを通して、交渉学の基本概念となるMission、ZOPA (Zone of Possible Agreement)、BATNA (Best Alternative to Negotiated Agreement)



IBM本社で交渉学の展開をする大塚氏



について俯瞰的に考えるということを実践演習（シミュレーション学習）しました。参加した学生は、IBM社員の皆さんとの混合チームで熱く議論を行いました。

(教育推進部 山本敏幸)



第14回交渉学ワークショップを行いました

8月9日、関西大学・東京センターで、学生目線で発信・共有するアクティブ・ラーニング及び交渉学の集いを行いました。参加者は、本学学生(9名)、武藏野大学学生(4名)、本学OB・OG(18名)、慶應義塾大学(教員1名)、神田外語大学(教員1名)でした。

最近の大学生のアクティブ・ラーニングによる学びについて日頃から関心をお持ちの社会人の皆様を対象に、各大学で行っているアクティブ・ラーニングの事例について学生目線でポスター形式による情報共有を行うことと、学生主導型の交渉学ワークショップ(社会人と学生の合同チームによるPBL)の2部構成で開催しました。

(教育推進部 山本敏幸、多田泰紘)

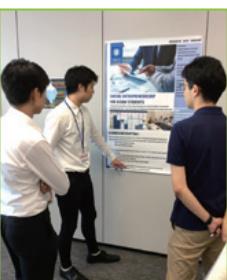
【午前の部】ポスターセッション

テーマ：文理融合型アクティブ・ラーニングの展開

武藏野大学の学生と本学の学生が文理融合型の主体的なアクティブ・ラーニングでの活躍をポスター形式で共有を行いました。参加した社会人からは昔の学生時代には想像もつかなかった学びの展開に感嘆と感動のコメントが寄せられました。



ポスター SESSION の様子



【午後の部】交渉学ワークショップ

毎年恒例となった本学OB・OGを交えた交渉学のワークショップを行いました。

学生主導型のワークショップであり、今回はグローバルでかつSDGsを加味した交渉学の領域でのアクティブ・ラーニングをテーマに、社会人と学生が合同チームを構成し、プロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)によるアクティブ・ラーニングを実践体験しました。狙いは「今日の自分」と「未来の自分」とのWin-Winな関係を形成するために、その未来社会で生きる人たちともWin-Winな多者間の関係を形成する未来のシナリオプランニング(未来設計)をロールプレイシミュレーションを行いました。



多者間交渉ロールプレイスペクタクル中の様子



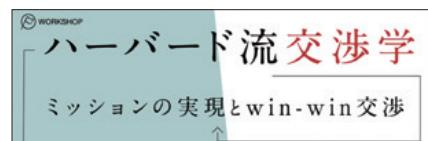
マイナビ交渉学に関大現役学生・OB・OGが参加しました

9月14日、グランフロント大阪31階において、マイナビ「マイフューチャーキャンパス」に登録する、高校生1~3年生、大学1~3年生、大学院修士1年生を対象に、交渉学の研修があり、本学の交渉学サークルのメンバーや交渉学授業をサポートしているLAが参加しました。

講師は一色正彦先生(金沢工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科客員教授)、佐藤裕一先生(株式会社グリア)であり、ファシリテーターとして本学の交渉学授業を担当する教員(田上、松木、塩川、山本)及び関西圏の社会人

の交渉学ファシリテータが担当しました。さらに、本学で交渉学を学び、交渉学の授業でLAを行っていた卒業生(増田さん、藤田さん、井上さん)が同じくファシリテータとして参加しました。

研修では、交渉学の基本的概念について講義があり、交渉学ケース教材をもとにして、シミュレー



ション学習を通じた模擬交渉することで実践的な体験をしました。(教育推進部 山本敏幸)



関大・交渉学OB(井上さん)、OG(藤田さん)のロールプレイシミュレーションの様子



部会からの報告／教育・学修成果部会(TLA部会)

「教育・学修成果部会(TLA部会)」では、学修成果の可視化に向けた評価指標の開発や間接調査・直接調査を検討します。具体的には、①学修行動・到達度調査の項目検討・実施・分析、②コモンループリック開発及び開発に向けた調査、③学修コンシェルジュ育成のためのSD研修を中心に行います。

宇都宮大学フォーラム参加報告

10月6日に宇都宮大学峰キャンパスにて開催された大学教育再生加速プログラム(AP)テーマI・II複合型採択校合同シンポジウム「今こそ、学修成果可視化の到達点と課題を洗い出そう！」に参加してきました。

AP採択校である4つの大学から、学生の学びの質保証に向けたポリシーの策定から、教育目標に照らしたカリキュラムの工夫、様々な効果の検証方法とその結果の活用方法に

至るまで、それぞれに特色ある熱心な取り組み事例が報告されました。どの大学も、大学全体を巻き込んで一体となって取り組んでいる様子がうかがえました。それぞれ中心となって携わっている先生方の報告ともあって、取り組み中の苦労や工夫等も含めた現実味のある細やかな内容が共有されたことはとても有意義でした。また、事例報告の後には、参加者がグループになって、「学修者のための

学修成果可視化とは」をテーマとして、それぞれの大学における取り組みや困っていること、事業に携わる中で考えていることなどを話し合いました。実際に事業に携わる他大学の教職員とざくばらんな雰囲気の中で議論できる時間は、大変実りある時間でした。

(教育推進部 矢田尚也)

ループリックの導入と運用をサポートしています

APプロジェクトでは、関西大学で教鞭をとられている先生方を対象に、文章作成や口頭発表、グループワークなどのパフォーマンス課題を評価する「ループリック」の導入と運用をサポートしています。

(教育推進部 多田泰絵)

【ループリックの導入と運用に関する「ティータイムセミナー】

2019年度春学期に、ループリックの作り方と使い方のティータイムセミナーを千里山キャンパスで開催しました。今回のセミナーでは、ループリックを「作る」「導入する」「修正する」の3つのテーマ(1テーマ1時間)について、公平で質の高いパフォーマンス課題の評価と、学生の学びを促進するループリックについて参加者を交えて議論しました。セミナーの動画と資料は下記ウェブサイトで公開しておりますので、皆さまの授業および学生指導にぜひご活用ください。



ティータイムセミナーの様子

●第1回「ループリックを作る」

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/topics/1529.html>



●第2回「ループリックを導入する」

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/topics/2619.html>



●第3回「ループリックを修正する」

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/topics/373.html>



【ループリックの導入をご検討の先生方へ】

ループリックの導入と運用についてご質問などがございましたら、

教育開発支援センター事務局 (mail: ap-info@ml.kandai.jp; 内線: 3822・3812) までお問い合わせください。

入学時調査・卒業時調査結果を各学部教授会で報告

2018年度卒業生を対象とした卒業時調査、2019年度入学生を対象とした入学時調査の集計結果について、各学部の教授会、または執行部会で報告しました。また、2019年度から、全学調査データや学事データ(入試種別、成績など)を用いた2変量以上の解析例をまとめたファクトシート集の運用が開始されました。種々の解析例から必要なものを選択することができるようになっており、各学部から要望のあった分析に

ついて、単純集計の結果とともに分析結果を報告しました。これにより、大学の持つ様々なデータの価値や活用方法に关心を持っていただくことができ、これまで以上に教学IRの機能を周知することもできました。事実、学部からの依頼も増えています。

また、2015年度から入学時調査を実施し、その学生が2018年度に卒業したことで4年間の紐付けが完了しました。さらに、在学生を対象

としたパネル調査や卒業生を対象とした卒業生調査を実施する学部も増え、大学教育の入口、中間、出口に沿った学生の変遷を可視化することが可能となりました。教育、学修の性質に関わる様々な分析が可能となります。今後ますます、学内において教学IRの存在感を強めていかなければいけないと決意を新たにしています。

(教育推進部 矢田尚也)

初年次教育『プロジェクト学習1』学修成果報告会および準正課プログラム活動報告会を開催しました

2019年7月、本学にて「プロジェクト学習1」の学修成果報告会と「準正課プログラム」活動報告会を合同で行いました。本報告会は、学生の発表スキルや学生同士の交流を促し、本学のポリシーである「考動力」の育成と共に、様々な授業や活動の魅力を高校生に伝えるこ

とを目的としました。

報告会には約30グループの学生が参加し、大学見学に訪れていた高校生約50名に向けてポスター発表を行いました。発表者は緊張しつつも楽しみながら発表を行い、「今後の活動の参考になる意見を高校生からもらった」と振

り返り、高校生も「色々な価値観に触れてとても楽しそう」などと、授業や学生生活を肌で感じることができたようでした。

今後も関西大学では「考動力」の育成を図っていきます。

(教育推進部 塩野綾香)



お知らせ

パフォーマンス課題についてのアンケート調査を実施しています

APプロジェクトでは、関西大学で授業を担当されている先生方が、レポートや口頭発表、実習、グループワークなどのパフォーマンス課題についてどのように評価されているかを調査しています。調査結果をもとに先生方の教育実践におけるパフォーマンス課題の評価傾向を把握し、今後学習支援プログラムやFDプログラムの開発などの教育改善に活かしたいと考えています。

アンケートはウェブサイトの専用フォームより5分程度で回答いただけます。また、回答内容は、教育・研究のためにのみ使用し、個人情報

は調査者の責任の下、厳重に管理します。ご協力よろしくお願ひいたします。

(教育推進部 多田泰祐)

●ウェブアンケートフォーム

<https://forms.gle/GXiVj4YCoE4apkb88>

(右のQRコードを読むことで回答ページへ直接入ることができます)



事務局より

2014年から始まったAP事業も今年がついに最終年度となりました。私も初年度から実際に6年間、事務担当者として関わらせていただき、AP事業を通じて本学の教育改革に向けた様々な取り組みを支援させていただきました。

数値目標について見ると、アクティビーニング科目の導入数・受講学生数、学修行動・到達度調査の実施率等、当初掲げた到達目標はすべて達成される見込みであり、担当者として胸を撫でおろしています。

ただ、本事業で掲げる「Lifelong Active

Learnerの育成」は事業期間をもって終了ではなく、今後も本学の目標であり続けます。また、自分自身もActive Learnerの姿勢を忘れずに、大学教育のさらなる加速のために貢献できる人材になりたいと思います。

(土)



**KANSAI
UNIVERSITY**

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514

E-mail: ap-info@ml.kandai.jp

教育開発支援センター <http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

AP取組 Webサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/ap/index.html>

発行日／2019年12月 編集・発行／関西大学 教育開発支援センター